

# 座談会

## TAKADA 今昔座談会 ～高田工業所の全てを知る4人～

今年9月に創業70周年を迎えるにあたり、今回、先輩方が築いてこられた足跡から、これからの当社の進むべき道や力を入れていくべきことなどを皆さんに考えていただこうと、当社の歴史を実体験された4人の先輩方にお集まりいただきました。昔を振り返っていただき、後輩たちに託す思いを語っていただきました。



高田プラント建設  
鐘ヶ江 博さん  
昭和7年生まれ(78才)



高田プラント建設  
山内 義明さん  
昭和13年生まれ(71才)



高田工業所  
佐藤 奎吾さん  
昭和13年生まれ(71才)



高田プラント建設  
香月 竹好さん  
昭和12年生まれ(72才)

### 皆さんの入社を経緯を教えてください。

鐘ヶ江 私は終戦の翌年、昭和21年に14歳で幼年工第1期生として入社しました。(幼年工：中学を卒業して、社員になる前の段階のこと) 当時、貧弱そうだった私は、入社試験の面接で「うちの会社には向いてないよ」と言われたので「使い物になるかならんかは、使っ



初期の高校卒社員の入社式

てから言ってください」と言いました。さすがに、落ちたなと思いましたが、なぜか合格していました。

山内 昭和32年に入社しました。我々が、高卒の作業職(現：技能職)定期採用の第1号です。大分県の三重高校から集団就職しました。

佐藤 私も山内さんと一緒に三重高校から出てきました。創業者 高田 壽夫元社長の故郷が大分県だったからでしょうか。

香月 私は、昭和30年に中途採用での入社です。勤めていた会社が倒産して、近所に高田工業所で勤めていた人がいて、紹介されて面接を受けました。当時は職を選ぶなんて、考えられませんでしたから。

### 入社当時の当社の状況はいかがでしたか？

鐘ヶ江 昭和20年代は、ほとんど三菱化成(現：三菱

化学㈱殿)の仕事でした。まずは先手(見習い工)として働き、自然と溶接工になっていました。本当は、入社してすぐに三菱化成の旋盤工場を見て、旋盤工になりたかったんですが...

香月 私が入社した頃は、本社工場が現在の黒崎の街中にありました。今はマンションになっている所です。そのビニール工場に配属になりました。私も同じように旋盤工になりたいと思っていました。

佐藤 昭和30年代には今の黒崎駅の裏に下宿があって、私たち集団就職組はそこに住んで、三菱化成まで歩いて通っていました。

山内 私たちの頃は、今のような導入教育なんて全くなく、すぐに現場で班長さんの下に付けられました。私は、会社が化学分野から製鉄分野に拡大して

いくと同時に、黒崎事業所から八幡製鐵(現：新日本製鐵㈱殿八幡製鐵所)の構内に異動しました。当時は、八幡製鐵がどんどん大きくなっていて、当社はそのメンテナンスで進出していきました。



昭和30年代のメンテナンス風景



本社工場での製鉄関係の水道管製作工事の様子

**若手の時代に、自分自身で努力したことはありますか？**

佐藤 私は、入社2年目ぐらいに同期3人で下宿をし、技能を身に付けるために、休みの前日には徹夜で、原寸・展開の練習をしたり、仕事の中での疑問点を下宿に持ち帰り3人で解いたりしました。それを1年間続けました。あとは、昼休みに現場にいて、先輩が打ったポンチの後を見てたどったり、自分で覚えたり、本を見たりして勉強しました。

鐘ヶ江 私が若い頃は、先輩が溶接する姿を見せてくれなかったのが、先輩に溶接棒を渡す係の時に、白ガラスにロウソクのススを付けて、先輩の溶接をこっそりと見ていました。それと朝1時間早く来て、先輩の溶接面を内緒で借りて練習をしていました。

山内 入社して10年ぐらい過ぎて、八幡構内から戸畑構内に異動し、お客様の要求通りの仕事をするように心がけていました。そうすると、お客様から指名され、上手く付き合えるようになり、仕事が楽しくなりました。

香月 当時は特別教育を受けた記憶もなく、班長さん

に教えてもらい、そのまま我流でやっていました。あとは、技術員と仲良くなって、自分が技術的に足りないところは、若手・ベテラン関係なく教えてもらいました。



昭和28年、現場での配管作業

**昔の先輩方はどういった方が多かったのですか？**

山内 いろんな班長さんがいました。若手は、班長さんの見よう見まねで、仕事を覚えるしかなかったですからね。

佐藤 製缶の先輩たちも、展開を書いてもすぐに足で消していました。じっくり見せてくれませんでした。

香月 逆に展開の線を余計に描いたりして、分からないようにしている先輩もいましたよ。

鐘ヶ江 溶接の先輩方は溶接する姿を他人には見せず、人が見に来たらアークを切っていました。私は、こっそりと見ていたので怒られていました。

**さまざまな工事に従事されたと思いますが、思い出に残っている工事は？**

香月 私は、昭和46年に本社工場で施工した三菱化成黒崎の集合煙突製作工事です。現在建っている煙突3基のうち2基は本社工場が総力を挙げて作りました。あの煙突は根元の離れている3本の管が、上空で1つに集まる構造になっているので、根元にちょっとでも誤差があると、上では全く合わないのが大変でした。当時は「黒崎名物を作るんだ！」と意気込んでいました。今では、孫に「あの煙突はじいちゃんが作ったんだよ」と自慢しています。

山内 昔は出張工事が多くて、現地で見えて覚えることができたけど、今は、協力会社さんが増えて、社員が大きな仕事にかかわる機会が減ってしまっているのが残念です。

鐘ヶ江 昭和34年の伊勢湾台風の時、四日市に復旧作業に出向きました。当時、新婚だったので嫁さんと一緒に行くと言われていたのですが「仕事に女はいらん！」と断ったら、当時の壽夫社長からえらく怒られました。あの工事は本当に大変で、朝現場に入ったら、トイレに行く以外休めませんでした。昔から、次から次へと出張工事ばかりで大変でした。当社が“狩猟民族”といわれる所以でしょうね。

佐藤 古い話ではないですが、平成9年の東京湾横



本社工場で製作される集合煙突

断道路工事は、とにかく規模が大きくて大変でした。特に輸送の際に船に積み込むのが大変で。輸送は他社が担当で、私たちは、工事担当としてクレーンの合図を出すために現地にいました。1日ばかりで玉掛けを32か所して、いざ積もうとしたら、玉掛けの順番を間違っただけでやり直しになり、1日の作業がパーになって、輸送だけで2日間かかりました。

### 昭和40年代から海外工事が盛んになりましたが、当初の海外工事はどのようなものでしたか？

(当社初の海外工事は昭和41年「インド・パローダのアンモニア・ユリアプラント建設工事」)

鐘ヶ江 昭和40年頃に壽夫社長が年頭訓話で「海外進出」と言い出された時は「何を言われてるんだ?」と思っていましたが、その後、上司から「ちょっと飛行機に乗ってこい!」と言われて、インドに行きました。言葉が通じず苦労しましたが、時間が経てば、業務上必要な単語は覚えて会話していました。

佐藤 沖繩が日本に復帰していない昭和46



海外派遣者の見送りの様子

年に、沖繩平安座島で施工した「ガルフ社(アメリカ)石油精製プラント工事」は、各場所の代表者が来てチーム対抗戦みたいな状況でしたよ。海外工事を通じて、チームが負けなためにみんな一生懸命で、そこで技能伝承が行われていました。まさしくOJTの世界でしたね。

山内 私は、八幡のメンテナンス担当だったので、あまり出張は経験していませんが、海外は2回行きました。海外出張に行く前に詳細が伝えられず「とりあえず行って来い!」といった具合でした。

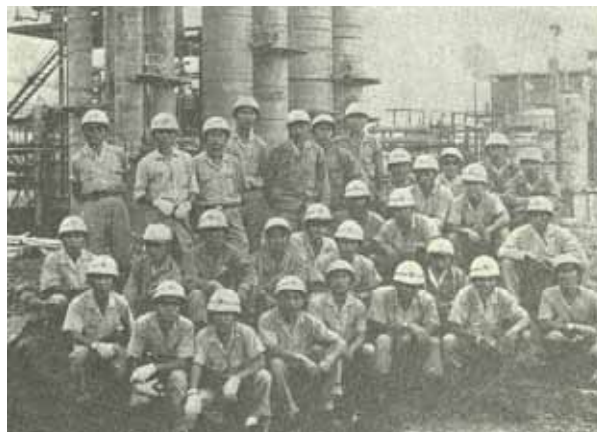
香月 私は佐藤さんと同じ沖繩の工事以外、海外工事に行ったことがないですよ。一応、パスポートは取得していたんですけどね。

全員 「珍しいねえ!」(笑)

### 何か海外でのエピソードはありますか？

山内 現地の生活に慣れるまでがきつかったですね。サウジアラビアのリヤドでは、1日窓を開けていたら、机の上やベッドに砂がたまって、またそのベッドで寝ないといけなくて...。ベッドの下や安全靴の中からさそりが出たことがあります。

佐藤 私も、サウジアラビアに半年間行った時は、水がなかったのが辛かったです。お風呂も少



初の海外進出先であるインド・パローダに派遣中の社員

ししかお湯が出ませんでした。恐ろしかったのは、リーダーとして工事に行った初日に、現場に入ろうとしたら、後ろから銃を突きつけられたことです。さすがに、びっくりしました。身動きがとれずに、現地人の作業者に説明させて最後はなんとか中に入りました。

### 創業当時から当社の発展の一翼を担われた皆さんですが、歴代の社長との何か思い出はありますか？

鐘ヶ江 創業者の壽夫社長が自らガス溶接をされた高圧配管の検査の時に、社長はその配管の溶接部分を両腕で抱かれています。それだけ、ご自分の溶接に自信を持たれていたんです。結果はもちろん大丈夫でした。今では、安全面から言うと大問題ですけどね...

香月 壽夫社長のガス溶接は素晴らしいかったですよ。当時、全事業所長を集めて、社長自らが溶接技術の手本を見せたそうです。

鐘ヶ江 私がタンクの溶接をした現場の定修工事の際に、現場の状況を見ずにいたら「馬鹿者!自分の溶接を確認しないと何事か!」とすごく怒られたこともあります。壽夫社長は現場

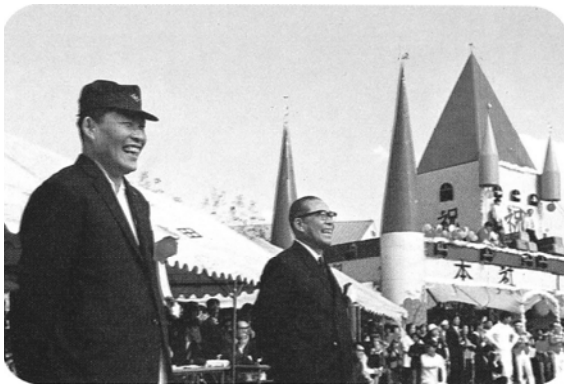


壽夫社長自ら、特殊溶接を技術指導

巡視で、よく現場のみんなに声を掛けられていました。社長から直にお声を掛けてもらえると、士気も上がり「頑張ろ

う!」という気分になりましたね。

香月 本社工場で賢一郎社長(現顧問)が実習生として来られていた時に、私は全然知らずに「おい高田!」と言って、一緒に仕事をしていました。周りの扱いがなんか違うな?とは思っていましたが、社長の息子さんだと知ったのは、しばらく経ってからでした。(爆笑)



創業記念運動会で競技を観戦される当時の壽夫社長（右）と賢一郎専務（昭和45年9月）

### 若い頃のアフター5やプライベートはどうでした？

- 全 員 酒とパチンコ（笑）
- 山 内 ダンスも流行りましたね。暇な時は、映画も見に行っていました。
- 佐 藤 先輩と遊ぶことはあまりなかったですが、よく角打ちで飲んでいました。当時の角打ちは賑わっていました。
- 香 月 給料日は、必ず班長と黒崎に繰り出していました。酒は浴びるほど飲みましたね。
- 山 内 給料が銀行振り込みになってから、あまりそういうのがなくなった気がします。昔は、現金でもらえていたので、給料日が楽しみでした。（全員が同感）

### 今の若手・中堅の技能社員に対して、何か思うことは？

- 山 内 今は、協力会社に大きな仕事をお願いしてしまうから、若手・中堅にはあまり勉強にならないと思います。君津支社や八幡支社でやるようなメンテナンスは、当社社員がやらないと。ベテラン社員の良い手本を見て、覚えるのが一番早いと思います。
- 鐘ヶ江 精度の高い工事を成功させれば、その人間、さらには高田工業所の技量はすばらしいと周りから高い評価がいただけます。
- 佐 藤 今は、若手にモノづくりをさせる機会が少ないと感じます。ほとんど既製品を使ったり、協力会社に依頼したりしますから。その点は残念です。
- 香 月 若手や中堅はモノづくりの喜びを体験していますか？ 新入社員には全社共通基礎技能教育の最後にモノづくりをさせていますが、あ



昭和45年度 新入社員技能コンクールの様子

れは成果が出ています。新入社員は作った製品に自信持っています。

### 皆さんは新入社員の教育に携わる上で、どういうことを意識して指導されていますか？

- 鐘ヶ江 指導するにあたって、しばらく実技をしていなかったの、自分も溶接の練習をしました。自分が苦勞すれば新入社員の大変さも分かると思って...
- 佐 藤 昔と違って個人主義者が多いと感じますが、団体生活なので、他人のことも思いやれるようになって欲しいです。

### 若手へ望むことは？

- 香 月 ハングリー精神を持って欲しいです！
- 鐘ヶ江 給料をもらっているということをしっかりと認識してもらいたい。
- 山 内 上司を頼って、それなりに仕事を覚えていけば、おもしろくなります。更に、安全に気を付けていれば、職場で喜んで働けます。

### 皆さんの生活信条、モットーは？

- 香 月 健康第一です！
- 佐 藤 年満を迎えるまで、丈夫な体だったのが、60歳を超えてから体調を崩しました。やはり、日常の体作りが重要です。病気で長生きするより、元気で長生きしないと何も面白くないじゃないですか。
- 山 内 人間、働かないと駄目になりますね。60歳で仕事を辞めてしまうと、一気に老け込みますよ。
- 鐘ヶ江 14歳から60数年間、健康で働けたことは会社に感謝しています。また、人間関係にも恵まれていました。高田工業所の創業者から現社長まで一緒にやらせていただいていることが私の誇りです。



昔の思い出や苦勞話を懐かしくまた、嬉しそうに語られた4人の方々

皆さん貴重なお話をありがとうございました。諸先輩方が残してくださった足跡を大事に、当社創業70周年に向けて、全社一丸となってまい進しましょう！